第６学年　総合的な学習の時間　学習指導案

１　単元名　　「ホスピタリティを広めよう」

２　単元の目標

○自分の地域を住民にとってよりよい地域にするための活動を通して，ホスピタリティの大切さが分かり，ホスピタリティのとらえをつくることができる。【知識及び技能】

○自他の地域を比較することを通して，地域の共通点や相違点を見いだし，その背景を考え，調べたことを関連付けて成果物や活動に表す。【思考力・判断力・表現力】

○地域をつくる一員である自分を見つめ直すことを通して，自分の住む地域をよりよくしていこうとする態度を培う。【学びに向かう力・人間性等】

３　単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
自分の地域をよりよくするには，自分を含めた住民に対してホスピタリティをすることが大切であることが分かり，ホスピタリティの意義や意味を見いだしている。	自他の地域を調べ，共通点や相違点を見いだし，その背景を考え，調べたことを関連付けながら，よりよい地域について成果物に表したり，活動をつくったりしている。	よりよい地域を目指して自分の活動を振り返ったり，仲間と共に互いのよさを生かしたりしながら，よりよい活動へとつくり変えようとしている。

４　単元と指導の構想

（１）単元設定の意図

人間は，居住地を決め，そこを拠り所として行動し，生活を営む。昔から生き抜くために「自分たちの生活を良くしよう」と身近な人々と交流し，大きなことを成し遂げるために集団となったり，集団となったからこそ大きなことを成し遂げたりした。その過程で，共同体，地域社会を構築してきたのである。

本学区は，昔から住んでいる方と近年移住してきた方が混ざって形成されており，昔からの地域住民のつながりが強い一方で，移住してきた若い世代の人々との交流がなかなか進まない現状がある。自治会に参加する人が減ってきており，構成員の高齢化が進んでいること，そして，それが原因で活動が思うようにできなくなってきていることが自治会の課題となっている。しかし，この多様な文化，背景をもっている移住してきた住民を地域社会に取り込めれば，さらに地域が活性化するきっかけとなる。また，そのような共同体で育った子どもたちは，今後どの地域に住んでも，多様な人々と協働し，新たな地域社会を形成する。そして，自分たちにとってよりよい社会を目指し，地域を活性化させようと活動することができると考える。

このことについて，東浩紀氏は著書『ゲンロン０』の中で，「観光客の哲学」の視点でよりよい社会（地域）づくりについて述べている。東氏はルソーらの人間が集団や社会をつくる考えを基に，人間は仲間をいくつも重ねることで共同体をつくり，その仲間が短い距離で多数結ばれることで社会が生まれるという。つまり，直接的なかかわり合いから生まれる地域コミュニティである。そして，その仲間は偶然の出会いである「誤配」によってつくられるのだが，その「誤配」を偶然でなく意図的に作り出すことの重要性を説いている。つまり，移住した人や多様な世代との交流である。地域と学校で生きる子ども，そしてその子どもと共に教育活動を展開する教師は，地域の人にとって東氏の言う「観光客」的である。それは，「誤配」による創造を生み出す契機になる存在である。逆に，子どもや教師にとっては，地域の人が「観光客」的な存在である。このことは，地域を舞台とした総合的な学習の時間を進めるに当たり，お互いに新たな知見を得ることで，子どもの力を高めると共に，共同体を質的に高め，地域の活性化も図ることにつながることを示す。

以上のことから，本単元では「ホスピタリティ」を扱う。「ホスピタリティ」とは，自分を含めた人に礼儀をもって接することである。ホスピタリティの考えにおいて，人に接するには直接と間接がある。直接的には真心をもち，丁寧に接すること。間接的には，相手のことを考え，気分が高まる環境や交流の場などを整えていくことであると考える。接する対象としての「人」は，年齢層，居住場所，感じ方や考え方などが異なり，極めて多様である。ホスピタリティは，こうした多様な「人」と，直接・間接を問わず接することを想定した概念である。このように，地域の人やものに働きかけ，働きかけられる中で，多様な人と交流することのよさを実感したり，

心が穏やかになる町づくりをしたりしながら，ホスピタリティを広めていくことを通して，子どもが自身の生活の仕方を見つめ直したり，自身の今後の在り方を考えていったりすることを望む。

（２）児童の実態

本学級は，計画を立てて行動することに意欲的な子どもが多い。また，学級全体で活動することにも意欲的で，計画を立てる際には自然にリーダーが発生し，全体の意見を聞こうとする。しかし，物事を一つの視点から考えて満足してしまう傾向もある。これらのことから，本単元での活動を通して，小学生以外の人と交流をすることや様々な世代の人の思いを考えて活動するよさにふれ，地域での自分の生き方を見つめ直し，これからの地域での生き方について考えてほしい。

（３）活動の経緯

５月，子どもは地域の自治会長から地域の実態についての話を聞き，自治会が安全パトロールをしたり，クリーン作戦を行ったりして，植物を管理したりしているなどの現状を知った。一方で，自治会に参加する人が減っていることや自治会構成員の高齢化が進んでいることなど，自治会の課題についても知った。子どもは，毎日の何気ない暮らしが自治会の活動で守られていることを知り，小学生にもできることはないかを考え始めた。そして，「人のために活動すること」を「ホスピタリティ（＝おもてなし）」と置き，地域の人にホスピタリティを行っていくことを考えた。

６月，子どもは佐渡への修学旅行を「佐渡のホスピタリティを探る」機会とした。修学旅行で見学や体験をし，佐渡は豊かな自然やおいしい地元料理を活かして観光客をもてなしていた。このように，その地域にしかできないことを「地域性」ととらえた。そして，自分たちの住む地域の地域性を活かすことで，地域に住む人の気持ちが高揚し，地域のよさを地域全体で守っていったり，ホスピタリティのよさを広げていったりしようという思いが強まり，地域の交流が深まるのではないかと考えた。そうして，「地域独自のホスピタリティで，地域がよりよくなる」と考え始めた。

７月，自分の住む地域の地域性は「植物が多いこと」なのではないかと考え，地域の公園を巡ってみて，思いを確かにした。その後，公園巡りをして感じたことを基に，「花を植える」「ポスターを作る」「掃除する」の３つができるのではないかと考えた。すると，今度はこの３つとホスピタリティの関係が曖昧になっていることを感じ始めた。

そこで９月，「ホスピタリティ」について考えた。日本，アメリカ，ロシアを比較し，自分たちの「ホスピタリティ」の定義を作ろうとした。大枠はできたが，一言で言い表せるほど詳細までは決まらなかったため，実践しながら考えていくことにした。

９月28日～30日にかけて，花屋，デザイナー，自治会長に来校していただき，今の時期に合う花やポスターの構成を教えていただいたり，地域での実践の許可をいただいたりした。

10月に入り，子どもは自分が主に実践したいグループに分かれて計画を立てた。しかし，実践するにはグループに分かれた状態では人手が足りないなどの問題が生じた。そこで，計画はグループに分かれて立てるが，実践は全員で行なっていくことにした。そうして，初めは植物を扱う花植えを行うことにし，花グループが手作りプランターを作り始めた。掃除チームは計画を立て終わるとプランター作りを手伝い始めた。ポスターチームは，協力して一枚のポスターを描き上げ，学級全体とデザイナー，自治会長に評価してほしいと願った。外部に評価をお願いしている間，プランター作りを手伝い，10月14日にプランターが完成し，花を植えて学校周りに飾った。

（４）指導の構想

単元を通して，子どもが出会う人・ものに働きかけ，働きかけられることにより，目に見えること（３つの実践）から見えないこと（概念）へとつなげることを大切にする。そのために，以下の３つの手立てを講ずる。

１　活動等を比較することを通して「ホスピタリティ」や「よりよい地域の在り方」を定義づける

自分の地域と他地域（他国）との比較により，自分の地域の地域性や「ホスピタリティ」についてとらえる。また，実践を３つに分けたが，３つ全てがつながっていることを常に意識付けるようにする。自分の実践と他の実践との共通点などを比較し，視点を決めて分類し，それらを関連付けながら活動を進めていく。そうすることで，子どもは常に目に見える３つの実践を踏まえ，「ホスピタリティ」や「よりよい地域の在り方」について議論し，焦点を絞りながら活動をつくると考える。そうして，子どもは自分の中で「ホスピタリティ」の意義や意味を見出したり，よりよい地域になるよう活動をつくり変えたりしていく。

2　自治会とのかかわりをもち続ける場の設定

子どもは，自治会が自分たちの生活を支えてくれていることを知り，「自治会を存続させなければならない」という思いをもっている。子どもとは世代や立場が大きく異なる自治会の方々と共に活動することを通して，自分もよりよい地域をつくる一員であることを自覚し，今後も自治会にかかわりながらよりよい地域をつくろうとする態度を培っていく。

3　よりよい考えをつくるiPadでの思考の蓄積

まとめや振り返り，「ホスピタリティ」の定義づけなどをiPadに残し，蓄積していく。子どもは，長い期間の活動の中で，活動の目的を確認したり，活動を行う中で自分の意識の変容に気付いたりしながら活動をつくり，つくり変えていくことが期待される。また，友達の書いたものを共有し，見ることができるようにすることで，自分の考えとの共通点などと比較し，分類したり，関連付けたりして思考し，成果物や活動に表し，よりよくつくり変えていくことができると考える。

5　単元の指導計画（全45時間）

小単元	時	学習のねらい（〇）と主な活動内容（・）	評価			
			知	思	学	評価規準
地域の今	1 ｜ 2	〇自分の地域を見つめ直し，地域がよりよくなるために必要なことを考える。 ・自治会長さんの話を聞く。 ・小学生にできることを考える。	〇		〇	〇自分の地域のよさや課題を見つけることができる。（知識・技能） 〇自分の地域をさらに知りたいという思いをもつ。（学びに向かう力）
他地域を活かす	3 ｜ 20	〇他地域での活動を調べたり，体験したりすることを通して，地域をよりよくするためのポイントを調べ，まとめる。 ・佐渡で体験や見学をする施設のホスピタリティについて調べる。 ・佐渡へ修学旅行に行き，体験や取材をする。 ・佐渡で学んだことをまとめ，自分の地域のホスピタリティについてできることを考える。	〇	◎	〇	〇適切な方法で佐渡の人が行っているホスピタリティを調べている。（知識・技能） 〇調べたこと，体験したこと，取材したことを基に，伝えたいことをまとめ，発表している。（思考・判断・表現） 〇自分たちの地域にも活用できることをまとめられるよう，友達と話し合いながらまとめをつくっている。（学びに向かう力）
地域性をとらえる	21 ｜ 25	〇自分の地域の魅力を再発見し，地域がよりよくなるために必要なことを考える。 ・自分の地域の地域性を考える。 ・学校近辺の公園をめぐる。 ・よりよい地域にするために自分がやりたいホスピタリティについて提案する。	〇	◎	〇	〇地域の地域性を発見することができる。（知識・技能） 〇佐渡の地域性と比較，分類し，地域の魅力として活かせるものやことについてまとめ，提案文を書くことができる。（思考・判断・表現） 〇自分のできることを考えている。（学びに向かう力）
日本と世界	26 ｜ 28	〇ホスピタリティの意味を考える。 ・茶道を体験し，日本のおもてなしの歴史を知る。 ・国際交流員の話を聞き，外国におけるホスピタリティを知ったり，日	〇		〇	〇体験や講話から，ホスピタリティの意味を考えることができる。（知識・技能） 〇ホスピタリティについて整理・分析し，まとめたことを発表すること

		本のホスピタリティに気付いたりする。 ・世界から見た日本のホスピタリティについてまとめる。				ができる。（学びに向かう力）
よりよい地域づくり	29 ｜ 40	○よりよい地域にするために自分で考えたことを実践する。 ・花屋，デザイナー，自治会長から話を聞く。 ・花植え，ポスター作り，掃除から１つ選び，計画を立てる。 ・実践についてアンケートを取り，評価をもらい，計画を修正しながら進める。**（本時）**	○	◎	○	○町の景観がよくなったり，地域住民が住みやすくなったりすることを考えて自分の実践をすることができる。（知識・技能） ○実践と理論を往還しながらよりよい実践にすることができる。（思考・判断・表現） ○自分の活動を振り返ったり，友達と共に活動したりし，自分の活動をよりよくつくり変えている。（学びに向かう力）
地域の未来	41 ｜ 45	○地域に生きる一員として大切なことを考える。 ・自治会長の話を聞く。 ・自分の実践が受け継がれていく方法を考える。 ・地域に生きる一員として大切なことを考える。		○	○	○自分の実践を受け継ぐ方法や地域の一員として大切なことを考え，伝えることができる。（思考・判断・表現） ○今後も地域の一員として自分にできることをしようとする思いをもつことができる。（学びに向かう力）

６　本時の計画

（１）本時のねらい（37時間／全45時間）

ポスターのつくりについてデザイナーの方や自治会長からいただいたアンケートやこれまでの考えた「ホスピタリティ」を基に，よりよく伝わるポスターへの解決策を話し合うことを通して，「ホスピタリティ」の意義や意味を見つめ直しながら，見た人に伝えたいことがより伝わるキャッチコピーを考えることができる。

（２）本時の構想

本時はポスター担当グループが作製しているポスターについて話し合いを行なう。ねらいに迫るために以下の３つの手立てを講じる。

１　子どもの考えの拠り所となる外部評価

子どもは事前にポスターグループの子どもが作製したポスターとそのポスターに対するデザイナー，自治会長２名からいただいた評価を知り，ポスターの「よさ」と「改善点」を自分なりに考えている。９月末にデザイナーの方から聞いた３つのポイント（①ポスターで何を伝えたいか②誰に向けて伝えたいか③見た人にどうなってほしいか）が入っていて，このポスターで伝えたい「ホスピタリティ」が伝わるかを検討する。外部評価を基にして意見を交流する中で，子どもは「ホスピタリティ」について考え始め，自分たちが伝えることでポスターを見た人にどうなってほしいのかを深く考えながらよりよいキャッチコピーへとつくり変えていく。

２　「ホスピタリティ」の定義づけに向けての話し合いの焦点化

ポスターのつくりについて話し合う際，「ホスピタリティ」につなげながら話し合うようにする。「ホスピタリティ」は抽象的な概念であるが，子どもは具体と抽象が混同しているため，実際に行う活動を「行動のホスピタリティ」，概念を「考えのホスピタリティ」として区別している。概念に迫っていくよう焦点化することで，「ホスピタリティ」の定義づけをしながら話し合いを行うことができると考える。子どもは話し合いを通して，「ホスピタリティ」の意義や意味について見つめ直していく。

３　これまでの活動を思い起こしたり，活動を比較したりするiPadや壁面掲示の活用

子どもは，これまでの活動や振り返りをiPadに蓄積している。また壁面にもこれまでの板書が掲示されている。本時もこれまでのことを自由に確認しながら話し合う。また，自分の実践

のことも蓄積されている。３つの実践がすべて絡み合っていることを意識付けてあるため，子どもは自分の実践で考えていることとも比較しながら，ポスターのつくりについて話し合うことができる。iPadや壁面掲示を活用して話し合いをすることで，子どもは多面的な視点をもちながら「ホスピタリティ」についての考えやポスターで伝えたいことを新たにしていくことが期待される。

（３）本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価　○留意点
1　ポスターの「よさ」と「改善点」を挙げ，学習課題を共有する。（15分）	Ｔ１　ポスターグループが作っているポスターの「よさ」を出しましょう。 Ｃ１　「町をきれいにしよう」が伝わってよい。 Ｃ２　現在の行動から未来の町が描いてある。 Ｔ２　「改善点」を出しましょう。 【学習課題】見た人によりよくポスターの内容が伝わるためにはどうすればよいか。 Ｃ４　自分たちの思いをもう少し伝える必要がある。 Ｃ５　活動は複数人で行なっているようにする。 Ｃ６　「笑顔が咲く」の後がどうなっているのかを描くとよい。 Ｃ７　キャッチコピーに伝えたいことを入れればよいのではないか。	○事前に書いたポスターの「よい点」と「改善点」についてのメモを用意する。 ○「よさ」から取り上げる。 ○行動と考えの両方の「ホスピタリティ」が入ることでよりよく伝わることを押さえる。 ○キャッチコピーを分かりやすくするとよいことを押さえる。 ○未来のことと現在のことが入ることでよりよく伝わることを押さえる。
2　解決策を考える。（5分） 3　学習グループで解決策を話し合う。（10分） 4　グループの解決策を全体で共有し，まとめる。（10分）	Ｔ３　地域の人に伝えたい「ホスピタリティ」が入ったキャッチコピーとそう考える理由をロイロノートに書きましょう。 Ｃ８　「優しい心できれいな町をいつまでも」 →みんなが優しくなるとよいから。 Ｃ９　「協力の輪を広げよう」 →かかわりをつくることが大切だから。 Ｃ10　「いつもきれいな町をありがとう！　みんなの笑顔をいつまでも咲かせよう」 →感謝や尊重することが大切だから。 Ｔ４　学習グループで話し合い，伝えたいことをまとめましょう。 Ｃ11　「思いやりを広めよう」 →思いやると相手が気持ちいいから。 Ｔ５　グループの意見を紹介し，全体で話し合いましょう。 Ｃ12　私たちの伝えたい「ホスピタリティ」は「誰にでもどんなことにも思いやりをもつ」ということだ。 Ｃ13　「思いやり」には「優しさ」なども含まれる。 【まとめ】見た人によりよく伝えるには，伝えたい「ホスピタリティ」をはっきりさせるキャッチコピーを入れ，未来と現在のことを絵や言葉で表すことが大切。	○これまでの学習の板書や書きためてきた作文などを振り返りながら考えるよう促す。 ■「ホスピタリティ」の意味や意義を考えながら，キャッチコピーをつくっているか。（ロイロノート） ○各グループリーダーのiPadに意見を収束するよう促す。 ○意見の中から共通点を見つけるなどして，「ホスピタリティ」の意味づけがなされるよう進行や板書を工夫する。
5　振り返りを書く。（5分）	Ｔ６　キャッチコピーも入れて，振り返りを書きましょう。 ○ロイロノートに振り返りを書く。 私は，「ホスピタリティ」が「思いやり」だと分	○観点を指示する。 伝えたい「ホスピタリティ」を基に考えたキャッチコピーを書

	かった。だからポスターの中には「思いやりを広めよう」など思いやりが広まるようなキャッチコピーにすればよいと思う。思いやりの中には「優しさ」や「明るく」なども入っているからはっきり伝わるようにするとよいと思った。 ・下線部のみはＢ （Ａは『思いやり』の価値についても言及している）	く。 ■「ホスピタリティ」の意義や意味を新たにしながら，キャッチコピーを考えているか。（ロイロノート）

（４）本時の評価

Ｂ：デザイナーの方や自治会長のアドバイスなどを基に，見た人に学級全体の思いがよりよく伝わるキャッチコピーを考えている。

Ａ：デザイナーの方や自治会長などのアドバイスを基に，「ホスピタリティ」の意義や意味を新たにしながら，見た人に学級全体の思いがよりよく伝わるキャッチコピーを考えている。

７　参考文献・資料

・文部科学省「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」2017年

・国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　総合的な学習の時間（小学校編，中学校編）」2020年

・国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　総合的な探究の時間（高等学校編）」2021年

・東浩紀「ゲンロン０　観光客の哲学」2017年，株式会社ゲンロン